

令和8年度 市長との対話集会（松永地区） 議事要旨

日 時：令和8年7月2日（木）19時00分～20時40分

場 所：松永コミュニティセンター

参加者：31名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

(1) 企業誘致・雇用と定住支援

- ・平野区の産業団地への企業誘致推進とともに、若者の地元就職・定住に向けた支援金の支給や従業員向けの居住費補助などを設ける。
- ・産業団地周辺にコンビニや飲食店など、生活関連施設を誘致し、利便性を高める。
また、関連施設に助成金の支給を行う。

(2) 観光・インフラと地域資源の活用

- ・物流や観光の基盤として舞鶴若狭自動車道の4車線化を急ぎ、京都・大阪方面からのアクセス向上を図る。
- ・明通寺などの寺社仏閣や松永川の自然環境を活かした体験型（魚掴みなど）の観光PRや、空き家を活用したジビエ（鹿肉）ハンバーガーショップなど、移住者を含めた新しいビジネスの立ち上げを期待する。

(3) 教育・人材育成とコミュニケーション能力向上

- ・将来を見据え、子どもの頃からコミュニケーション能力を育成することが重要。子どもたちが、地域の大人に気軽に相談でき、深く対話できる居場所があるといい。
- ・子どもたちの考えや思いを聞くため、「市長との対話集会の子どもバージョン」を開催する。
- ・若者の流出を防ぐため、小中学生の段階から市内企業での就業体験を導入し、魅力を伝える。
- ・サバ缶に続く商品開発や地域の魅力を発見できる探究学習の実施、農業の担い手、AI・ドローン等のスマート農業を学べる専門学校の誘致など、人材育成の環境を整える。

(4) 地域コミュニティの活性化

- ・移住者が戸惑う古いしきたりの見直しや、独身者の出会い・交流の場の創出が必要。
- ・地域団体（外遊び研究会）が企画したイベントに想定以上の参加者が集まった事例もあり、地域の大人と子どもが一緒に楽しみながらコミュニケーション能力を育む機会を増やしていく。

2 市長からの主な回答

(1) 企業誘致・雇用と人材育成

- ・産業団地については、工場だけでなく周辺の飲食・生活関連施設の立地も視野に入れて検討する。
- ・将来の人材確保に向け、子どもたちが地元企業を知る体験機会の創出を企業側と連携して検討する。
- ・農業のスマート化（ドローンやAIの活用）など、若い世代の柔軟な発想と最新技術を活かした挑戦を後押しする。

(2) 観光と地域資源の活用

- ・ 寺社仏閣は過度な整備を行うより、本来の魅力や歴史を引き出しながら周遊できる PR 戦略を展開したい。
- ・ 空き家を活用したジビエの提供等、地域でやる気のある人材の挑戦に対しては、市が応援する「みんなで潤う☆小浜づくり事業」もあるので、積極的に活用してほしい。
- ・ 舞鶴若狭自動車道 4 車線化の早期実現は、引き続き国へ強く要望する。

(3) 教育とコミュニティの連携・居場所づくり

- ・ 子どもが気軽に地域の大人と対話できるコミュニケーションの設計は非常に重要。空き家を活用し、地域が主体となって運営・企画するような多世代交流の居場所づくりは素晴らしいアイデアである。
- ・ 昨年度から子育て世代を対象にした「対話集会」や子どもたちを対象とした「子ども未来会議」を行っており、今年度も予定している。
- ・ 探究学習を引き続き支援し、「地域課題」だけでなく若者が自分たちで考えて「地域未来」を創る教育を推進する。